

交流トキ中 足跡知って

羽咋の村本さん

5月に資料館開設

ファンクラブ

拠点にも利用

計画では、自宅近くの空き地に平屋建ての建物を設け、屋根にはトキをモチーフにした看板を掲げる。村本さんの自宅で保管している資料を並べ、5月の愛鳥週間に合わせてお披露目する予定にしている。子どもたちにトキの保護活動を紹介する場として活用するほか、トキが飛び交う能登を目指し、昨秋発足した「能登トキファンクラブ」の拠点としても利用してもらう。

村本さんは1993（平成5）年5月、民間外国人

日中朱鷺保護協会名誉会長の村本義雄さん（96）が5月、自宅近くに、トキの生息地・中国陝西省と続ける交流を伝える「資料館」を設ける。今年には日中国交正常化50年の節目であり、村本さんが中国で野生のトキと出会って30年となる。20回を数える訪中時の写真をはじめ、保護活動を通して現地から届いた手紙や絵、記念品を展示し、トキが紡いだ絆を後世に残していく。



訪中時の写真、現地からの手紙紹介

として初めて陝西省洋県の地を踏んだ。トキの保護政策について現地の人に助言するとともに、学校の机と椅子2880人分を寄付した。

洋県の子どもたちからは「トキのおじいさん」として親しまれ、感謝の手紙や絵が村本さんのもとに届くようになった。2007年9月に贈られた絵には「交流の使者」として野生のトキを観察する村本さんが描かれている。

陝西省の野生動物保護協会やトキ救護飼養繁殖センターとのやりとりの手紙、東日本大震災を気遣う現地の人からの手紙などもある。村本さんは「資料が多すぎて、どれだけあるか分からない」と話しながら、資料の仕分けを進める。

国交正常化から半世紀となる今年、日中両政府の関係は冷え込んでいるが、村本さんは「トキを介した日中の民間交流は永遠に続く。交流の証しを見て、子どもたちに命の尊さを感じてもらえればうれしい」と話した。

5月の資料館開設に向け、中国陝西省から届いた資料を整理する村本さん

羽咋市上中山町